



中小企業がイ乎から始める 在宅勤務の障がい者雇用

在宅勤務者の 業務内容とは？

株式会社カラフィス

代表取締役

三井 正義

- 第1回 コロナ禍だからこそ障がい者雇用の促進を
- 第2回 在宅障がい者雇用の基本的な考え方
- 第3回 在宅勤務者の業務内容とは？
- 第4回 採用はどのようにする？
- 第5回 毎日のマネジメントはどうする？
- 第6回 在宅勤務と障がい者雇用のこれから

新型コロナウイルス感染症の拡大が続くなか、その活用に注目が高まる在宅勤務。障がい者雇用においても関心が高まっており、検討を始めた会社も少なからずあるようです。

ただ、実際の導入に向けてはいくつかの壁があり、特に多くの企業を悩ませるのが「何の仕事をやってもらうか」です。



事例1

幅広い人事業務を担当

リーフラス株式会社（本社東京・従業員数1821人）は、企業理

今回は障がい者の在宅雇用をすすめて進めている2社の事例から「何の仕事をしているか」を具体的に紹介していきます。

念として「スポーツを変え、デザインする」を掲げ、あらゆる社会課題をスポーツにより解決するソーシャルビジネスを展開しています。

事業拡大が続くなか、一層の障がい者の雇用が必要となり、昨年からは完全在宅の障がい者の雇用をスタートさせ、現在2名が活躍しています。

Aさん（46歳）は、北海道在住。肝機能に障害を抱え、週に3回の透析が必要です。

これまで土木建築現場での仕事を中心だったため、事務系業務の経験はありませんでした。

Bさん（30歳）は、高知県在住。発達障害で精神障がい3級の手帳を持っています。

2人の所属は管理本部人事部。

「全国展開していますが、原則として拠点には事務業務の専従スタッフを配置していないので、各拠点から多くの書類が人事部に送られてきます。人のやることですから当然ミスもあり、チェックする項目は多数あります。きちんとチェックしないと大きな影響を与えるものも含まれています。在宅の2人には主にこのチェック業務にあたってもらっていますが、ま

さになくしてはならない存在として大活躍してもらっています」と、2人の上司で人事部長の青木賢一さんは語ります。

2人が担当する主な業務を3つ紹介します。

(1) マイカー利用申請業務

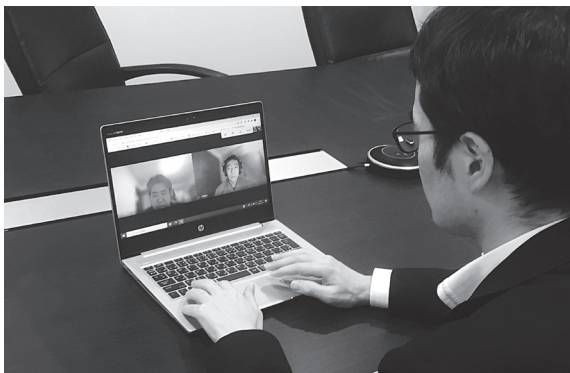
同社には、仕事でマイカーを利用する人が数百人います。免許証・車検の更新の際に、車両利用者は必要書類をPDFデータとして人事部に送付し、人事部の担当者が各システムに入力します。

Aさんが中心となつて、マイカーの利用申請メールの受付、提出書類の正誤チェック、間違いがあった場合の修正依頼、そして最終的にシステムへの入力業務を行なっています。

(2) パート・アルバイト社員の登録書類チェック

事業の拡大で、新たにシステムに登録されるパート・アルバイト社員が、多い月では100名以上にのびります。

入社にあたっては既定のフォーマットに入力する必要がありますが、ここでもチェックを行ないます。住所・氏名・年齢が間違つて



いないか、給与振込口座の確認、マイナンバーや扶養控除申請などが正確に入力されているかをチェックします。

間違いがあると、正しく給与が支払われなくなってしまう項目もあります。月初に集中して担当している業務です。

(3) システム移行の準備業務

現在、新人事システムへの移行を行なっていますが、特にBさんはシステムに強く、大きな戦力となっています。

クラウドを切り替えるにあたっては、実は細かな設定の見直しが必要

です。

たとえば、電話番号。番号をそのまま入力するのか、市外局番などいくつかの枠に分けるのか、細かなことですが、これらを事前に確認し準備しないと、インポートに支障が出てきます。

Bさんは入社前に就労移行支援施設に通所していましたが、そこでマイクロソフトオフィススペシャリストを学びました。

「いまの仕事は自分のパソコンの知識を活かせるので嬉しい」と言っています。

このほかにも健康診断関連のデータチェック、社員名簿の更新、毎月の人事異動の広報など、Aさんが「1日として同じ業務で終わる日はない」と言うほど幅広い業務で活躍中の2人。

「スタッフの業務は幅広く、処理する業務は多量です。そのなかで、AさんとBさんは本当に心強い存在です。いまでは、新しい業務を持ち込まれると、どうやったら2人に任せられるだろうか」と最初に考えています。今後も、より多くの在宅の障がい者が、活躍できるようにしていきたいと思います」と直接2人の日々の業務をマネジメントしている若林裕さんは

語っています（写真）。

事例2

得意分野を活かし戦力に

株式会社あしたのチーム（本社 東京・従業員数250人）は、報酬連動型人財育成プログラム「ゼッタイ！評価[®]」をはじめとする人事クラウドシステムを提供しています。

一昨年から在宅の障がい者の雇用の検討を始め、現在2名が活躍しています。

Cさん（43歳）は、北海道在住。30歳のときに腎不全で移植手術を受け、現在は免疫治療を続けています。これまでの就業経験は接客業が中心でした。

Dさん（31歳）は、長野県在住。先天性の腎不全で、合併症により聴力・視力にも障害があり、視力は左目のみ、両耳に補聴器をつけています。

Dさんは、IT系の専門学校を卒業後、東京の複数の企業でITを活かした仕事を経験し、昨年1月に故郷の長野に戻り、6月からいまの仕事を始めました。

2人は、それぞれの得意分野を活かして活躍しています。

管理部に所属するCさんと、クラウド事業部に所属するDさんの主な業務は次のとおりです。

(I) 勤怠入力システムの確認業務

あしたのチームでは、全社員が勤怠入力システムに出社・退社・休憩取得を入力します。

Cさんが毎朝ルーティンで行なう業務が、このシステムへの入力漏れがないかの確認です。漏れがあった場合は、上司に伝えて入力を依頼します。

以前は管理部のメンバーがこの作業を行なってきましたが、Cさんが引き継いで早々にコロナの影響により全社でリモートワークがメインとなりました。そのため、勤怠管理の重要度が以前にも増して高まっています。

(2) 中途・新卒採用の実務

採用に関わる実務も担当業務の1つです。中途採用では、面接担当者のスケジュールをスケジュールで確認し、応募者との面接日程を決定します。その後も、SPIの案内や面接試験の設定をCさんがメールのやり取りで行なっています。

あしたのチームでは積極的に新

表 障がい者向けの業務内容の例

領域	事例
人事系	<ul style="list-style-type: none"> ● 社員の通勤費・業務交通費が適正に申請されているかをチェック ● WEBテスト（コンプライアンステストなど）の事務局 ● 社員寮の一連の手続き
総務系	<ul style="list-style-type: none"> ● 名刺発注窓口 ● 会議室予約 ● 各種マニュアル作成・メンテナンス ● 提出物のメールでの発送と回収
入力業務	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケート入力 ● 登録票入力業務
サイト・WEB関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 競合サイトをチェックし定型入力 ● SNSでキーワード監視 ● AIデータの収集（画像・音声） ● ホームページのメンテナンス ● WEBアクセシビリティ
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● チラシ作成

卒採用を行っており、多いときは月に複数回、1回あたり100名以上を集めてWEBでの会社説明会を開催しています。

説明会の出欠確認、エントリーシートの提出確認などもCさんが行っており、いまや欠かせない存在です。スカウトメールでの応募者の掘り起こしもCさんの役割となっています。

このほか、月末時点の各拠点の営業資材の在庫確認と結果の入力やWEBによる社内広報誌での出産や結婚、MVP表彰などの情報発信もCさんの担当業務となっています。

います。

(3) 社内ITサポートのキーマン

クラウド事業部に所属するDさんは、IT能力を活かして、全社のシステム化の向上に力を発揮しています。

前職でも、経理・総務業務のIT化を実現してきたDさん。

主に社内のITサポートを行っていますが、会社が提供する商材の効率化のプログラムを構築するなど幅広く活躍しています。

社内の情報の流れをスムーズにするためのポータルサイトの構築

も、その成果の1つです。

Dさんが、毎日全社員あてに配信している「パソコン豆知識」も高い人気があります。「リモートワークの時間削減にお勧めのパソコン設定」「この関数で表作成が素早くできる」など実務に即した内容になっています。

Dさんに「在宅のメリットは、どんなところにありますか」と質問すると、「聴覚障がい者にとつて在宅のメリットは特に大きい」と答えます。

前職ではオフィス勤務をしていたDさん。オフィスでは口頭でのやり取りや、大人数の会議、電話の声といった多様な音声が行き交い、聴覚障がい者は、それぞれへの対応が求められます。Dさんは「特に電話がしんどかった」と振り返ります。一方、在宅勤務になると、音声はPCからヘッドホンを通したものに限られます。「音声が一歩格段に下がった」とDさんは言っています。

への配慮は必須です。

今回紹介した2社は、障がい配慮しながら事業戦術として期待し、障がい者に活躍してもらっています。

リーフラスのAさんの言葉が印象的です。

「就労移行支援施設で事務の訓練もしてきましたが、いま実際に仕事に就いてみると、訓練より格段に楽しい。たしかに難しい業務もありますが、会社から期待され緊張感をもって仕事をするのがやりがいにつながっています」

また、地方の障がい者を在宅で雇用するシステムは、能力面で優れた人材を採用する可能性を広げています。

「DさんのIT能力は、東京では他社と採り合いになり、採用がなかなかできないレベル。当社が地方の障がい者の在宅勤務雇用という制度をもっていたから、採用できたのです」とあしたのチームの採用者は語っています。

2社に共通する戦術としての期待

障がい者雇用において、障がい

今回は2社の事例をあげましたが、他にも様々な業務がありますので、その内容は表を参考にしていただければ幸いです。